

保育園における感染性胃腸炎集団発生への対応 ～保育園所管課との連携について

○山田由香里、田川喜子、鳴海千秋、中村由紀子、勝田美代子、勝山和明（大津市保健所）

【はじめに】

保育園は乳幼児が長時間、密着して生活することから感染症の集団発生リスクが高い集団である。

大津市内には公立14か所、民間41か所の計55か所の保育園がある。

平成22年12月に探知した民間保育園における感染性胃腸炎の集団発生事例では、保育園・所管課ともに調査・指導の必要性を理解するまでに時間を要した。

その後、保育園からの報告体制が整い、所管課と連携した調査・指導が実施できるようになった。その成果と今後の課題について報告する。

表1【感染性胃腸炎集団発生件数】

	H22年度	H23年度	H24年度
件数	19	19	19
内保育園数	14	13	15
内公立保育園数	6	10	8

表2【保育園への調査数】

	H22年度	H23年度	H24年度
保健所単独	3	2	1
同行	11	8	9
所管課対応	0	3	5
計	14	13	15

表3【公立保育園集団発生1事例あたりの平均患者数】

	H22年度	H23年度	H24年度
平均患者数	43名	33名	22名

* H24年度は12月末現在のデータ

【同行調査に至るまでの経過】

・平成22年12月1日・3日
民間保育園における感染性胃腸炎集団発生探知。保育園所管課と調査・指導の協議を行うも調査の必要性の理解は得られず、保健所のみで対応。

・平成22年12月8日

保健所長通知

「社会福祉施設等における感染症等集団発生時に係る報告について」

・平成22年12月10日

公立保育園における感染性胃腸炎集団発生探知。保育園所管課と同行調査。

各園に共通する問題点をまとめて保育園所管課に情報提供。

【保育園所管課の対応】

平成22年12月10日以降、原則同行調査を実施。平成22年12月末の園長会にて、園長の感染対策に関する意識を高めるため、保育園所管課長

より訓話を実施。

平成22年度末に保育園から所管課への報告基準を取り決め、初期調査、指導の実施。

【感染症集団発生に関する研修会実施状況】

- ・大津市保育協議会と共催（園長研修会）
「保育園におけるノロウイルス感染症対策」
平成23年1月19日：42名参加
- ・保育園所管課と共催
「感染性胃腸炎発生事の対応について」
平成23年8月29日：15名参加
平成23年9月5日：24名参加
「感染症危機管理の視点について」
平成23年9月12日：39名参加

【保育園における感染対策の問題点の変化】

平成22～23年度

- ・マニュアル通りに対応しない職員がいる
- ・健康観察、記録が不十分で患者の発見が遅い
- ・知識不足により正しい対策がとられていない
- ・感染対策より乳幼児の快適性や保護者の負担軽減を優先してしまう
- ・職員の手洗いが不十分である
- ・保護者への情報提供ができていないため、情報収集が不十分、家庭の協力が得られない

平成24年度

上記の問題点は改善されているが、職員の手洗いのタイミング、手洗いの手技等の課題が残っている

【今後の課題と体制づくり】

1. 保育園所管課職員が感染拡大防止の視点を養えるよう所管課職員と同行調査を行う。
2. 「感染症対策従事者研修会」を定例開催し、保育園職員全体の知識・技術の向上と保育園における感染症対策リーダーを養成する。
3. 保育園の感染症対策に関するマニュアルの整備・見直しとマニュアルどおりに行動できる体制づくりを行う。
4. 園長会等で必要な情報を提供し、施設における感染症対策を健康危機管理として対応できる体制を強化する。

【まとめ】

保健所と保育園所管課との連携により保育園における感染症の集団発生を早期探知することができた。また、調査・指導・研修会等の実施により職員の意識が高まり、正しく対応を取られることで、集団感染リスクの高い保育園での患者数を減らすことが出来た。